

平成27年度計画に対する実績報告

平成27年度 新居浜高専 年度計画	年度計画に対応して実施した事業内容
<p>1 教育に関する事項</p> <p>(1) 入学者の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・愛媛県内の中学校長会の新規理事校及び校長が交代した理事校を校長と副校長が訪問し、教育・入試・進路等の概要を説明する。</li> <li>・イベントや研修会などの開催案内をホームページに掲載するとともに、地元ケーブルテレビや記者クラブに情報を発信する。</li> <li>・定期的にメールマガジンを発行する。学校訪問や各種イベント等、機会あるごとにメールマガジンの案内を行い、登録者の増加を図る。</li> <li>・入学志願者数が前年度実績を上回ることを目標に、広報推進本部が中心となり中学校訪問等の広報活動を有効的かつ効率的に実施する。</li> </ul>	<p>1 教育に関する事項</p> <p>(1) 入学者の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・5月に愛媛県内の中学校長会の新規理事校4校を校長と副校長が訪問し、教育・入試・進路等の概要説明を行った。</li> <li>・イベント等の開催案内を本校ウェブサイトに掲載するとともに、ケーブルテレビや記者クラブに情報発信した。</li> <li>・メールマガジンは、本校の最新情報を広く発信するため毎月1回発行し、中学校訪問や学内イベント等、機会あるごとに中学生、保護者、中学校教員等に対して登録の案内を行った。その結果、新規登録者数は、前年度に比べ約1.8倍の増となった。</li> <li>・6月と11月を中心に年2回、県内をはじめ近隣の中学校を訪問し、本校の概要説明及び入試に関する情報提供を行うとともに志願者状況等の情報収集を行った。また、各中学校が主催する学校説明会にも参加し、入試PRを行った。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学校長、進路指導主事等を対象に地区別学校説明会を開催する。</li> <li>・夏季体験学習、学校見学会(オープンキャンパス)、学園祭における入試問題解説コーナー、ミニキャンパスツアー等を実施する。</li> <li>・中学生向け新居浜高専紹介冊子「はばたけ！未来へ」には、女子学生、女性の卒業生の活躍の様子を多く掲載し、女子中学生への広報を行う。</li> <li>・昨年度作成した、高専女子百科Jr.を各中学校へ配布し、女子志願者確保のPRを行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地区別学校説明会を3地区(徳島西部、東予、今治)で開催した。</li> <li>・夏季体験学習、学校見学会(オープンキャンパス)、国領祭における入試情報コーナー(入試問題解説コーナーを含む)及びミニキャンパスツアーを実施した。</li> <li>・中学生向け広報誌「はばたけ！未来へ」に女子の在校生及び卒業生からのメッセージや写真を多く掲載し、女子中学生の興味を引く内容として広報を行った。</li> <li>・高専女子百科Jr.(新居浜高専版)を各中学校へ配布し、女子志願者確保のPRを行った。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ステークホルダーを意識した広報パンフレット等の作成を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ステークホルダーを意識した中学生向け広報誌「はばたけ！未来へ」の作成を行った。</li> <li>・学校紹介ビデオのリニューアルについて、6月から1年をかけ(28年5月完成)作業を進めている。</li> <li>・本校ウェブサイトについても、メインページを中心に部分的ではあるがスマートフォンに対応させるなどリニューアルを行った。今後も、順次、リニューアルを進めていく予定である。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・アドミッションポリシーにふさわしい人材を選抜できるよう推薦選抜及び学力検査を適切に実施する。</li> <li>・正確公正な入試を実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・推薦選抜及び学力検査を適切に実施でき、アドミッションポリシーにふさわしい人材の確保ができた。</li> <li>・正確公正な入試が実施できた。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・「入学者の学力把握状況調査」及び「入学志願者確保対策取組調査」に協力するとともに、他高専の事例等を参考にして今後の対策を検討する。</li> <li>・現在進行中のトイレ改善整備計画に基づき、平成27年度も引き続きトイレの整備を進める。</li> <li>・女子用施設のニーズ調査を実施し、整備計画を策定の上、緊急度等に応じ整備を推進する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「入学者の学力把握状況調査」及び「入学志願者確保対策取組調査」の調査結果を入試広報の参考にした。</li> <li>・トイレ改善整備計画の一部見直し、女子トイレの整備を進めた。</li> <li>・女子用施設のニーズ調査を実施し、合宿研修所改修に際しては、女子学生の要望等を取り入れた施設として整備を行った。</li> <li>・上記のような広報活動等の結果、今年度入試における志願者数は前年度実績を維持することができた。(1名増)</li> </ul>
<p>(2) 教育課程の編成等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・専攻科において、平成29年度に現在の3専攻2コース制から1専攻5コース制へ改組することを目指し、教育課程の設計等を進める。</li> <li>・教育改善システム等を利用し、継続的に教育課程の改善・充実を進める。</li> <li>・今後の高専のあり方(7年制を含む)について、中国・四国地区の高専と協働して検討をする(ブロック会議)。</li> </ul>	<p>(2) 教育課程の編成等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・専攻科において、平成29年度に現在の3専攻2コース制から1専攻5コース制へ改組を計画し、高専機構と情報交換を実施してきたが、産業構造の急速な変化、グローバル化等への対応できる技術者を養成するためには本科を含めた改組について検討する必要があると判断し、専攻科のみの改組は中止した。本科を含めた改組については、WGを新たに設置し、検討を開始したところである。今後、高専機構本部と意見交換をしながら検討を進めることとしている。</li> <li>・中国・四国地区の校長会議、校長・教務主事会議等に参加し、教育・FD等についての協働のあり方について検討を行った。本校では、化学系の化学工学の協働共有の幹事校として協働授業等について検討を進めている。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・運営諮問会議を開催し、地域のニーズ等について外部有識者から意見を伺い、本校の運営に活かす。</li> <li>・企業アンケートを実施し、企業の求める人材、高専卒業生の評価等について調査を実施し、教育課程の編成等の資料とする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2月に外部有識者による運営諮問会議を開催し、本校の教育研究活動及び地域連携活動等について意見交換を行った。ここでの提言等については、今後の学校運営に反映させていくこととしている。</li> <li>・専攻科生産工学専攻環境材料工学コースにおいては、同コース修了生を受け入れている企業及び修了生本人を対象にした「学習・教育目標の達成度に対するアンケート調査」を実施し、その結果の分析を行った。</li> <li>・本校において開催している企業説明会への参加企業を対象に、企業の要求を満たしている能力、不足している能力等についてアンケート調査を実施した。その結果については、カリキュラム改善等に反映させることを検討している。</li> <li>・学科及び専攻科の改組を検討する資料とするため、アンケート調査の実施を検討中である。</li> </ul>

## 平成27年度計画に対する実績報告

平成27年度 新居浜高専 年度計画	年度計画に対応して実施した事業内容
<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習到達度試験「数学」、「物理」の結果を、各科目の担当教員が分析し、FDに役立てるとともに、教員会において報告を行う。</li> <li>・本校においてTOEIC-IPを年2回実施し、第1回目については3年生以上は全員受験させる。また、1、2年生は全員TOEIC-Bridgeを受験させ、これらの受験結果を参考に、英語力の向上を図る。</li> <li>・四国地区高専英語主任会議を設け、四国地区での英語統一試験の実施について検討を行う。</li> <li>・英語プレゼンテーションコンテストに参加する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・数学、物理の各担当教員が、試験結果について解析を行い、今後の指導計画等も含めて、教員会で報告した。</li> <li>・英語力向上のために、TOEIC-IPを年2回実施した。第1回目については3年生以上は原則全員受験させ、未受験の学生についてはTOEIC公開試験または2回目のTOEIC-IPを受験するように指導した。1、2年生は、ほぼ全員がTOEIC-Bridgeを受験した。その結果を教員会で報告し、情報共有を図った。そのほか、第1回目の試験の未受験者や低得点者への対策を講じるとともに、専攻科学生の低得点者対象にTOEIC補習も行った。</li> <li>・四国地区高専英語主任会議をテレビ会議で実施し、実力試験の実施報告、高知高専で実施している多読実践の報告、全国高専英語プレゼンテーションコンテストの動向について意見交換を行った。</li> <li>・四国地区高専の英語スピーチコンテストに参加した。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・「勉強アンケート」及び「授業アンケート」を継続し、その結果を分析し、学生及び教員にフィードバックする。</li> <li>・「担任アンケート」を実施し、その結果を分析し、教員にフィードバックする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業アンケート、勉強アンケートを実施し、その結果を分析し、教員にフィードバックし、授業改善に活かした。</li> <li>・担任アンケートを実施し、その結果を担任にフィードバックし、最優秀担任を選出した。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・高専機構が主催・共催する全てのコンテストに参加するとともに、その他の高校生及び高専生対象とするコンテスト等にも参加を推奨し、支援をする。</li> <li>・学内において「ものづくりコンテスト」を継続して開催する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全国高専連合会が主催するロボットコンテスト、プログラミングコンテスト、デザインコンペティション及び体育大会に参加した。英語プレゼンテーションコンテストについても参加した。</li> <li>・昨年度出場した「鳥人間コンテスト」については、今年度は書類選考を通過できなかったが、新たに「Honda エコマイレージ チャレンジ 2015 本田宗一郎杯 全国大会」に参加し、初出場ながら完走を果たした。</li> <li>・その他多数のコンテストに参加し、「高校化学グランドコンテスト」で最優秀の文部科学大臣賞を受賞、「大学・高専テクニカルアカデミー研究発表コンテスト」で特別賞を受賞、「学生書道コンクール」においては前年度に引き続き推薦を受賞、「いよぎんビジネスプランコンテスト」で専攻科生がスタートアップ部門で奨励賞を受賞するなど多数の賞を受賞した。</li> <li>・留学生においても、新居浜市における日本語スピーチコンテストに毎年参加し、さらに、今年度は「第12回留学生日本語スピーチコンテストin愛媛2015」において南海放送賞を受賞した。</li> <li>・学内ものづくりコンテストについては、授業参観日の振替、セメスター制、後期の学校行事等の関係で、今年度は開催することができなかった。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・新居浜市や社会福祉協議会と連携し、ボランティア機会の周知、推奨を行う。</li> <li>・本校学生会と新居浜市との里親契約に基づき、定期的に本校周辺の清掃を実施する。</li> <li>・課外活動でのボランティア参加も積極的に推進する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各方面からボランティアの案内がある都度、学級担任、クラブ指導教員等を通じて学生へ周知を行った。</li> <li>・学生会による里親清掃は、今年度もほぼ毎月実施した。</li> <li>・課外活動においては、奇術部が老人福祉施設や保育施設などへの慰問を10年以上にわたって続けており、今年度は演劇部もこれに一部参加した。また、ローターアクト部が「優良ボランティア団体」として昨年度に引き続き新居浜市長表彰を受けた。</li> <li>・本校教員が主になって活動をしている「介護工学研究会」が実施するボランティアフェスティバル、社会福祉大会などのイベントや新居浜市社会福祉協議会内での「福祉用具修理改善相談コーナー」において、教員と学生が介護機器の修理を行うなど社会貢献を行った。</li> <li>・学生会環境委員が主体となり、校内美化活動の一環として春と秋の年2回花壇整備と花植えを行った。その他、学生会の環境局によるベンチの塗装や自転車置き場の蜘蛛の巣とりなどの環境整備も行った。</li> <li>・5月に寮生が地域の清掃日に合わせて寮内外大掃除を行い、地域住民と共に学校周辺の用水路の清掃を行った。</li> </ul>
<p>(3)優れた教員の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教員の採用については、すべて公募形式で行っているが、更に、選考委員会や人事委員会において、優れた教員確保に努めるとともに、教員の採用に際し、高専教育に有用な種々の経歴を持つ人材にも留意する。</li> </ul>	<p>(3)優れた教員の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・数理科(准教授又は講師)の公募において、応募資格に「日本語を母国語としない方の場合は、日本語による講義と日本語によるコミュニケーションを充分に行うことができること」を初めて加え、外国人からの積極的な応募を促す工夫を行った。ただし、結果として外国人からの応募はなかった。</li> <li>・その後、機械工学科、電子制御工学科、一般教養科(ドイツ語)の公募を行い、それぞれ他高専助教、博士後期課程在学者(3月修了予定)、非常勤講師と様々な経歴を持つ人材を確保することができた。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・「高専・両技科大間教員交流制度」を活用し、教員の受入・派遣を推進する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成26年度から香川高専との間で、1名を派遣し、1名を受け入れた。</li> <li>・今年度に創設された「同居支援プログラム」においては、平成28年度に北九州高専に1名派遣し、香川高専から1名受け入れる予定である。</li> </ul>

平成27年度計画に対する実績報告

平成27年度 新居浜高専 年度計画	年度計画に対応して実施した事業内容
<ul style="list-style-type: none"> <li>多様な背景を持つ優れた教員を採用するために、人事委員会において、教員採用の公募条件について綿密に検討を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>人事委員会開催前に、校長と教員公募を行う学科主任との間で、特に公募要領の「応募資格」と「提出書類」について十分検討した上で、人事委員会審査部に諮り、同部会委員でもある全学科の主任の了承を得ている。更に、最終的に、人事委員会において公募案を承認する手続きを行っており、今年度においても4件の公募について、同様の手続きを踏んでいる。</li> <li>4件(数理・機械・電子制御・一般)とも応募資格として、「博士の学位を有する者(取得見込みを含む)」としているほか、うち2件は、長期勤続によるキャリア形成を図るため、33歳から35歳までの若手研究者に限定した公募を行った。(公募の文面上は「限定」ではなく「〇〇歳以下の方が望ましい。」という表現。)</li> <li>人事委員会については、審査の過程を簡素化し、校長の教員人事に係る権限を明確化するとともに、実質的な審査が行われるよう規程改正を行った。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>女性限定公募、女性優先公募等により女性教員を積極的に採用する。</li> <li>「校長と女性教職員との懇談会」を継続して開催し、育児と仕事の両立支援策、女性教員のキャリア形成及び就業環境改善等について意見交換を行う機会を設ける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>女性優先の公募を4件実施し、うち一般教養科(ドイツ語)の公募に対し、1名、女性からの応募があった。審査の結果、その女性を採用した。</li> <li>「校長と女性教職員との懇談会」を1月に開催し、主に施設面に関する要望等について意見交換を行った。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>四国地区大学教職員能力開発ネットワーク(SPOD)ーFDプログラム「今すぐ役立つ授業Tips アクティブ・ラーニングのスタート」を本校で開催する。</li> <li>同ネットワークの主催するFDセミナー等への積極的な参加を促す。</li> <li>高専機構が主催する研修会には、必ず1名以上が参加し、また、その内容については、教員会等で報告する。</li> <li>昨年度に引き続き、学生相談に関するFD講習会を開催する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>5月に、阿南高専から講師を招いて、同FDプログラムを開催し、37名が参加した。</li> <li>SPOD開設プログラムについては、同事務局からの開催通知を全て学内へメール周知し参加を推奨した。「授業設計ワークショップ」、「ティーチング・ポートフォリオ作成ワークショップ」、「英語教育改革セミナー」、「学生の授業時間外学習を促すシラバス作成法」、「「学生主体」の授業デザインワークショップ」、「FD「大学入門ゼミ」日本語技法の教え方」に各1名参加した。</li> <li>「新任教員研修会」(4名)、「教員研修(管理職研修)」(2名)、「IT人材育成研修会」(1名)、「中堅教員研修」(1名)、「組込みシステム開発」(2名)、「情報担当者研修会」(3名)、「アクティブラーニングトレーナー教員研修会」(2名)、「インストラクショナルデザイン研修」(1名)、「CTT+ホルダ研修」(1名)に参加させた。</li> <li>平成27年度国立高専機構英語教育高度化推進のための「英語教授法認定資格コース」に4名が応募し、うち2名が受講することとなった。</li> <li>7月に、西条保健所健康増進課から講師を招いて、「こころのスキルアップ教育～認知行動療法を用いて～」と題して学生相談に関する研修会を開催し、45名が参加した。また、受講者のうち3名の教員が、研修内容と同じ内容で、学生向けの授業を行った。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>高専機構の顕彰制度に加えて、学内顕彰(優秀教員、優秀担任)も継続して実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>高専機構の顕彰制度に基づき、最優秀教員2名(一般部門、若手部門各1名)を選出した。審査の結果、一般部門は文部科学大臣賞、若手部門は理事長賞を受賞した。</li> <li>学内顕彰として、最優秀に続く優秀教員3名を選出した他、優秀担任1名を選出した。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>国内外研究員として参加しやすい環境(支援体制)を充実させ、教員の国内外派遣を推進する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教員の派遣については、校長の指示の下、派遣できる機会があれば、学科の校務分担を見直すこと等により、研修・研究の機会を充実推進させることとしている。</li> <li>平成28年度「国立研究開発法人物質・材料研究機構における派遣研究教員」に環境材料工学科の教員1名を推薦したが、残念ながら、採択に至らなかった。</li> </ul>

## 平成27年度計画に対する実績報告

平成27年度 新居浜高専 年度計画	年度計画に対応して実施した事業内容
<p>(4)教育の質の向上及び改善のためのシステム</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全国高専フォーラム等でモデルコアカリキュラムについての情報を収集しながらモデルコアカリキュラムの導入促進を図る。</li> <li>・アクティブラーニングに関する研修や到達度評価のためのルーブリック評価研修等に参加し、授業内容・方法改善を促進する。</li> <li>・学生の予習・復習や自学自習をサポートするため、eラーニングシステムとしてWebClassを活用する。</li> <li>・科目間調整連絡会を継続し、専門基礎科目と専門科目の一層の連携を図る。</li> </ul>	<p>(4)教育の質の向上及び改善のためのシステム</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全国高専フォーラムの「Webシラバスの活用とルーブリックの展開」ワークショップに参加し、平成28年度のシラバスへのルーブリック評価の導入を決定する等、モデルコアカリキュラムへの対応を進めている。</li> <li>・本校において、「今すぐ役立つ授業Tips アクティブ・ラーニングのスタート」として研修会を実施した。</li> <li>・アクティブ・ラーニングを推進するために、「アクティブラーニングトレーナー教員研修会」に2名の教員を派遣した。また、その内容について教員会で報告し、学内の教員への情報共有化を図った。</li> <li>・教育改革推進本部MCC推進部門直轄プロジェクト(アクティブラーニングに関する評価指標の開発と実践事業)のメンバーに1名の教員を参加させている。</li> <li>・WebClassを自学・自習教材の提示や勉強アンケート集計等に活用した。</li> <li>・数学、物理、化学の専門基礎科目について、科目間調整連絡会を開催し、専門学科と一般科目との連携を図った。</li> <li>・教員会において、環境材料工学科の教育改善事例として、カリキュラム改訂、学習雰囲気づくり等による低学年の成績向上について報告してもらい、教育改善活動の情報共有化を図った。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・高専機構からの統合システム関係調査に協力する。</li> <li>・統合システムに関して必要と思われる情報を、取りまとめ校を通じて迅速に高専機構に提供する。</li> <li>・新システムの導入に向けて受け入れ態勢を整える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・機構本部から検証用データ提出依頼があり、速やかに検証用データを提出した。</li> <li>・その他、現行システムのバグ潰しや仕様・データ出力機能の確認を行っている。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・JABEE推進室を中心とし、4つの認定プログラムで継続的な教育の質の向上を図る。</li> <li>・それぞれの専攻に適した資格取得を学生に奨励する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各JABEEプログラムで教育改善に取り組んだ。平成27年度末に有効期間が終了する3つのプログラムについては、受審経費及び事務的負担と修生の受けるメリット等について総合的に検討し、継続審査は受審しないことを決定した。今後の教育改善活動については、学外の有識者及び学内の点検機関等を通じて、これまで以上のチェックを実施していくこととした。</li> <li>・在学中の資格取得を促進するために、適切な資格試験を学生に提示するとともに、資格取得により単位の認定を行っている。「知的財産管理技能検定」については、3級の受験対策講習会を学習支援の一環として夏季休暇中に実施し、その結果、5名が合格した。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・四国地区高専間の学生会交流会、全国高専学生会交流会、中国四国地区専攻科生研究交流会に参加する。</li> <li>・四国地区高専との連携・交流事業に参加する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4月に徳山高専主管で実施された「中国四国地区専攻科生研究交流会」に全専攻科生が参加し、研究発表を行うとともに他高専学生との交流を深めた。また、次年度の主管開催に向け準備を行った。</li> <li>・6月に四国地区高専の学生会交流会をテレビ会議により実施した。</li> <li>・6月に新居浜市教育委員会、新居浜市生涯学習センター等の留学生支援の関係諸団体を招き、外国人留学生歓迎交流懇談会を本校で開催した。</li> <li>・8月に実施された全国高専学生会交流会に学生会が参加し、他高専学生との情報交換を行った。</li> <li>・12月に開催された四国地区高専総合文化祭に文化系サークル所属の学生が参加した。</li> <li>・上記総合文化祭に併せて実施された各高専の留学生による交流研修旅行にも参加した。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・総合データベースで公表された教育実践例や取組例を参考にし、教育方法の改善を促進する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育方法の改善のために、総合データベース「KOALA」で公表された教育実践例や取組例等を参考にした。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度受審した高等専門学校機関別認証評価の評価結果をホームページ等において公表するとともに、評価結果に基づく改善等に取り組む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成26年度に受審した高等専門学校機関別認証評価について、評価結果を本校ウェブサイトにおいて公表をした。</li> <li>また、評価結果において改善を要する点とされた事項については、順次、改善に向けた対応に取り組んだ。</li> </ul>

平成27年度計画に対する実績報告

平成27年度 新居浜高専 年度計画	年度計画に対応して実施した事業内容
<ul style="list-style-type: none"> <li>・本科4年生及び専攻科1年生全員がインターンシップを実施できるよう支援する。また、海外インターンシップへの参加についても支援する。</li> <li>・新居浜工業高等専門学校技術振興協会（以下、「愛テクフォーラム」という。）の会員企業と連携して、現職企業人による講義の充実を図る。</li> <li>・愛媛大学との包括協定により、非常勤講師の推薦（幹旋）やインターンシップ、ものづくりフェスタの開催などを実施する。</li> <li>・各種コンテストへの参加や地域との連携（企業技術者等活用プログラム）によりエンジニアデザイン能力を涵養する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本科4年生及び専攻科1年生全員がインターンシップに参加した。本校独自に計画した海外インターンシップとして、モンゴルと重慶(中国)において専攻科生3名が参加した。高専機構主催の「海外インターンシッププログラム」については、第2次日程に本科生1名が参加予定であったが、体調不良のためやむを得ず不参加となった。</li> <li>・「愛テクフォーラム」と連携して、講義内容に適した現職の企業人に「経営工学(5年後期)」の講師を依頼し、講義を実施した。</li> <li>・非常勤講師の派遣、インターンシップの受入れ、「ものづくりフェスタin松山」の開催等について、愛媛大学の連携協力により実施した。</li> <li>・全国高専連合会主催のロボコン、プロコン、デザコンに参加し、その他にも「Honda エコマイレージ チャレンジ2015」、「高校化学グランドコンテスト」、「大学・高専テクニカルアカデミー研究発表コンテスト」等に参加した。特に「高校化学グランドコンテスト」では、最優秀の文部科学大臣賞を受賞した。(再掲)</li> <li>・「企業との協働による分野的横断能力の養成」、「福祉現場における実践的課題解決教育プログラム」の企業技術者等活用プログラムを実施し、課題解決能力、コミュニケーション能力、チームワーク力等の育成に努めた。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・「企業との協働による分野的横断能力の養成」の企業技術者等活用プログラムを継続して実施する。</li> <li>・5年生全員が受講する授業科目「経営工学」の中で知的財産教育(90分×4コマ、外部講師)を継続して実施する。</li> <li>・知的財産管理技能検定3級合格を目指した「知的財産管理技能検定受験講座」(90分×5回、外部講師)を継続して実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「企業との協働による分野的横断能力の養成」の企業技術者等活用プログラムを専攻科1年生を対象に実施し、コミュニケーション能力、チームワーク力等の育成に努めており、次年度も継続して実施する予定である。</li> <li>・5年生全員が受講する授業科目「経営工学」の中で知的財産教育を実施しており、次年度も継続して実施する予定である。</li> <li>・「知的財産管理技能検定」については、3級の受験対策講習会を学習支援の一環として夏季休暇中に実施し、その結果、5名が合格した。(再掲)</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度、豊橋技術科学大学で内地研究を行った教員による豊橋技術科学大学の教員研修や教育課程の改善の取組などについての報告会開催や情報提供の場を設ける。</li> <li>・ISTS及びISATEに、教員または学生を参加させ発表を行う。</li> <li>・三機関連携事業への積極的な参加を推進する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前年度、豊橋技術科学大学に内地研究員として派遣した教員が、全教員参加の教員会において研究内容等について報告を行い、情報の共有化を図った。</li> <li>・第9回国際工学教育研究集会(ISATE2015)において、教員1名がポスター発表(題名「多読活動に連動させた子供への英語絵本読み聞かせ」)を行った。また、ISTS2015には専攻科生1名が参加し、発表を行った。</li> <li>・「国立高等専門学校教員グローバル人材育成力強化プログラム」へ1名の教員の派遣を申請したが、採択には至らなかった。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報教育センター情報教育部門を中心に、ICTを活用した教育の導入を推進する。</li> <li>・機構が導入するOffice 365を全学で利用できるように整備する。また、機構が導入する高専機構統一LMSについて、来年度から利用できるように整備を進める。</li> <li>・教育用電子計算機システムの調達を実施する。</li> <li>・新外部インターネット回線(SINET5)の共同調達について対応する。</li> <li>・学校内ネットワーク機器、学校内通信ケーブルの再敷設の共同調達について対応する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・Office 365、高専機構統一LMSについては、学生アカウントの設定を完了した。4年生に先行して配布し、次年度の全学生配布への準備を進めた。</li> <li>・教育用電子計算機システムの調達について、平成28年9月導入を目途に仕様を策定した。</li> <li>・新外部インターネット回線(SINET5)の切替を実施した。</li> <li>・校内通信ケーブルの再敷設工事が完了した。校内ネットワーク機器については、機構本部とのヒアリングが終了し、構成を決定した。次年度以降の調達とその際に行うネットワーク構成の改善について準備中である。</li> </ul>

平成27年度計画に対する実績報告

平成27年度 新居浜高専 年度計画	年度計画に対応して実施した事業内容
<p>(5) 学生支援・生活支援等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・メンタルヘルスに関する講習会には、必ず教員1名以上が参加し、教員会等で報告するなど他の教職員へも周知を図る。</li> <li>・メンタルヘルスに関する教職員向けの学内研修会を開催する。</li> <li>・1、2年生を対象に不登校学生、いじめ被害の予防対応のためにQ Uテスト及びいじめアンケート、心と体の健康調査を実施する。</li> <li>・「特別支援教育推進室」及び「学生相談室」が中心となり、より一層の学生ケアに努める。</li> </ul>	<p>(5) 学生支援・生活支援等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・外部機関(地域若者サポートステーション)と連携し、学生の進路や就労の支援を行った。</li> <li>・専攻科新生生に対してメンタルヘルス講話を行った。</li> <li>・外部機関(愛媛県西条保健所)と連携して1年生の各クラスを対象に「こころのスキルアップ教育」を実施した。</li> <li>・学生相談室だよりを年8回発行し、学生のメンタルヘルスに対する意識を向上させることに努めた。</li> <li>・メンタルヘルスに関する講習会等への教職員の参加状況は以下のとおりである。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・「平成27年度障害学生支援ワークショップ」へ特別支援教育コーディネーターが出席</li> <li>・「平成27年度全国障害学生支援セミナー」へ特別支援教育コーディネーターが出席</li> <li>・「平成27年度四国地区学生相談室連絡協議会」に学生相談室長、看護師、特別支援教育コーディネーターが出席</li> <li>・「全国国立高専メンタルヘルス研究集会」に学生相談室長及び学生相談員2名が出席</li> <li>・「新居浜市中高特別支援教育コーディネーター連絡協議会」に特別支援教育コーディネーターが出席</li> <li>・「平成27年度前期発達支援スキルアップ連続講座」に各学科等から教職員が出席</li> </ul> </li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「キャンパス・セクシャル・ハラスメント全国ネットワーク」に学生相談員が出席</li> <li>・7月に教職員向けの学生相談に関する研修会として、外部講師(西条保健所)による講演会(演題:こころのスキルアップ教育～認知行動療法を用いて～)を開催した。</li> <li>・いじめに関するアンケート調査を前・後期各1回実施した。</li> <li>・日常においては、学生支援委員会と学生相談室が中心となり、特別支援教育推進室、学級担任、情報教育センター、学寮等と連携し、学生間のトラブル等について速やかに対応した。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・寄宿舎をはじめとする学生支援施設の実態調査と学生に対してニーズ調査を実施し、整備方針・計画を策定する。</li> <li>・整備方針・整備計画に基づき、平成27年度の寄宿舎等の施設整備計画を策定し、緊急度・必要度に応じ計画的に改修等整備を実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・寄宿舎をはじめとする学生支援施設の実態調査と学生に対してニーズ調査を実施し、整備方針・計画を策定した。</li> <li>・整備方針・整備計画に基づき、合宿研修所の改修整備を実施するとともに、緊急度の高い学寮浴室の改修整備について営繕要求を行った。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・各種奨学金制度(財団法人三浦教育振興財団、財団法人中西奨学会、財団法人ウシオ財団、天野工業技術研究所奨学基金、愛媛県奨学生、公益信託武智義加ものづくり奨学基金、財団法人関育英奨学会など)については、教室への掲示や担任等を通じて、学生への周知(案内)を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各種奨学金制度については、募集がある都度、教室等への掲示や学級担任等を通じて学生への周知を行い、その結果、延べ175名が奨学生として採用された。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・キャリア教育を推進するため、「愛テクフォーラム」等とも連携し、学生と地域産業界との情報交換の場を設ける。</li> <li>・校内に設置している「キャリア教育プラザ」の有効利用を図る。</li> <li>・学内での企業説明会を継続して開催する。</li> <li>・1～4年において工場見学等の研修旅行を実施する。</li> <li>・本校同窓会と協力した学生への支援活動として、本校卒業の企業OBによる就職相談会を開催する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「愛テクフォーラム」と連携し、教員と学生が地域の会員企業3社を訪問し、情報交換を行った。</li> <li>・「キャリア教育プラザ」に就職に関連する資料を学生が必要な時に自由に閲覧できるよう配架し、また、ポスター等各種案内についても、その都度、掲示し周知を行った。</li> <li>・3月に本科4年生と専攻科1年生を対象とした企業説明会を本校体育館において開催した。学生への企業紹介の機会を増やすため、午前・午後2部開催とし、県内外から148社の参加があった。</li> <li>・6月にキャリア教育の一環として、1～4年生が近隣企業の工場見学等、研修旅行を実施した。</li> <li>・5月に本校同窓会と協力し、OBによる就職に関する相談会を実施した。</li> <li>・7月に同窓会東予支部に新設された青年部主催による「第1回 超・交流会」を開催し、若手のOB・OGと在校生らによる交流相談会を実施した。</li> </ul>
<p>(6) 教育環境の整備・活用</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今後の施設整備の方向性と具体的方策等を盛り込んだキャンパスマスタープランを作成する。</li> <li>・施設マネジメントにより学内全体の整備需要・要望を調査の上、平成27年度の施設整備計画を策定し、緊急度・必要度に応じた計画的な改善整備を行う。</li> <li>・施工規模の大小にかかわらず、省エネ型器具、再生材料や木材等の自然資源を積極的に取り入れ、ランニングコスト低減と地球環境に配慮した設計・施工を推進する。</li> </ul>	<p>(6) 教育環境の整備・活用</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今後のキャンパスマスタープラン(案)を作成した。</li> <li>・各学科等からの整備要望のとりまとめ及び施設/パトロールにより校内全体の整備需要・要望を把握の上、施設整備計画を策定し、緊急度・必要度に応じた計画的な改善整備を行った。</li> <li>・施工規模の大小にかかわらず、省エネ型器具、再生材料や木材等の自然資源を積極的に取り入れ、ランニングコスト低減と地球環境に配慮した設計・施工の推進に取り組んだ。</li> </ul>

## 平成27年度計画に対する実績報告

平成27年度 新居浜高専 年度計画	年度計画に対応して実施した事業内容
<ul style="list-style-type: none"> <li>・弓道場(射場)の構造体耐震化を完了させ、本校施設の耐震化率を100%とする。</li> <li>・第1、第2体育館のバスケットゴール及び照明器具等の更新を実施し、本校の非構造材耐震化を完了させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・弓道場(射場)の構造体耐震化については、機構本部及び香川高専施設課と協議を行い、より経済的な方策を再検討することになった。(is値は基準を満たしているが、q値は基準に満たない状況である。)</li> <li>・第1、第2体育館のバスケットゴール及び照明器具等の更新を実施し、本校の非構造材耐震化が完了した。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・PCB廃棄物の処理は、平成38年度末までの完了を目指し、計画的に実施する。当面は特別措置法等に基づいた適切な保管に努めながら、処理予算の確保策等を計画する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・未処理となっている低濃度のPCB廃棄物は、特別措置法等に基づいた適切な保管に努めており、今後、処理方法について検討をする。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学病院の放射線技師を招き、放射線業務従事者研修を実施する。</li> <li>・大学から講師を招き、安全衛生管理講習会を実施する。</li> <li>・新入生及び新規採用教職員に高専機構作成の「実験実習安全必携」を配付する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・7月に、愛媛大学医学部附属病院放射線部の主任技師(放射線取扱主任者)を講師として招いて放射線業務従事者講習会を開催し、関係教員8名及び技術職員1名が参加した。</li> <li>・11月に、大阪大学安全衛生管理部副部長を講師として招いて安全衛生講習会を開催し、教職員46名が参加した。</li> <li>・新入生及び新規採用教職員に高専機構作成の「実験実習安全必携」を配付した。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・他高専の男女共同参画に関する取り組みについて、ホームページ等を参照し調査するとともに、効果的な取り組みについて、本校での実施を検討する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他高専における男女共同参画に関する取り組みについては、男女共同参画推進室の室員が分担して調査を行い、推進室の会議で報告を行った。調査の結果を踏まえた事業計画の検討については継続課題となっている。</li> <li>・11月に山口大学で開催された「第7回中国四国男女共同参画シンポジウム」に室員1名が参加し、1月の教員会において報告を行った。</li> </ul>
<p>2. 研究や社会連携に関する事項</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全国高専フォーラムに参加する。</li> <li>・科学研究費の申請・採択率の向上を図るため、外部講師による採択され易い申請書の書き方についての講習会を実施するとともに校長による研究計画調書のブラッシュアップを行う。</li> <li>・教員の研究活動促進のため、平成24年度から実施している校長裁量経費特別奨励研究(科研枠)公募制度を継続する。</li> </ul>	<p>2. 研究や社会連携に関する事項</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全国高専フォーラムにおいて、生物応用化学科の教員2名がセッション「学外学習を通じたキャリア教育」のオーガナイザーを務めたほか、セッション「高専の産学共同研究プロジェクト成果 ～事例発表～」でも環境材料工学科の教員が発表を行った。</li> <li>・8月に科学研究費の申請・採択件数の増加を目的として、審査員の経験もある広島大学大学院教授を講師に迎え、科学研究費助成事業の仕組みや申請書の書き方のポイントについて、審査の観点及び自身の経験を踏まえた講習会を実施した。</li> <li>・9月に本校事務部による科学研究費申請に係る手続き及び書き方並びに公的研究費の不正使用防止等について、説明会を実施した。</li> <li>・科学研究費申請にあたっては、すべての研究計画調書について校長によるブラッシュアップを実施した。</li> <li>・教員の研究活動を促進し、外部資金の獲得の増加を目的とする校長裁量経費特別奨励研究(科研枠)の公募を実施し、2名の教員に対し研究費の支援を行った。</li> <li>・科学研究費に関する上記取組の成果としては、平成27年度分の申請件数(含技術職員)は、前年度の48件から59件に向上した。 しかし、課題として採択件数(新規分)が3件(うち1件は他機関へ転出)と横ばい状態で依然低迷している状況にある。</li> <li>・新たに「科研費採択率アップのための勉強会」を立ち上げ、専門分野が異なる少人数のグループのメンバーが、お互いの申請書について指摘し合い、専門分野外の者でも理解できる内容まで向上させた後、それを基に申請書を書く試験的な取組を導入した。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員の年間業績報告書を作成し、ホームページで公開をする。</li> <li>・「愛テクフォーラム」と連携して企業との共同研究を推進する。</li> <li>・本校が開催している「新居浜高専工業技術懇談会」において、本校教員だけでなく、四国地区高専の教員を招いて研究シーズ紹介を実施する。</li> <li>・市役所での教育研究関連展示を実施する。</li> <li>・高専機構主導で行う大都市圏での研究シーズ展示会出展、四国地区高専イノベーションセンター主導で行う大都市圏での研究シーズ展示会出展への参加を奨励する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・6月に前年度における教員及び技術職員の年間業績を報告書としてとりまとめ、本校図書館のウェブサイトに掲載し、広く公表した。</li> <li>・2月に本校の教育研究活動の一部を一般市民に知ってもらうため、新居浜市役所玄関ロビーにおいて今年度の高専ロボコンに出場したロボットやそれを紹介するパネル等を1週間展示した。</li> <li>・地元企業との共同研究を推進するため、「愛テクフォーラム」からの研究費支援について働きかけを行った。</li> <li>・12月の「愛テクフォーラム」定期総会後に、本校教員3名による研究シーズの紹介及び高校化学グランドコンテストで文部科学大臣賞を受賞した学生2名による研究成果の発表会を行った。また、「愛テクフォーラム」の会員企業のニーズを把握するためのアンケートも実施し、今後の活動に反映させる予定である。</li> <li>・3月に産学官の情報交流の場として「第54回新居浜高専工業技術懇談会」を開催し、本校教員3名がこれまでの研究成果や今後の展望について発表を行った。</li> <li>・大都市圏における研究シーズの発表として、次の展示会等にそれぞれ教員1名が参加し、研究成果の発表を行った。 ① 2015NEW環境展／5月26日～29日(東京ビッグサイト) ② TECHBizEXP02015／11月18日～20日(名古屋吹上ホール)</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員の研究を支援(奨励)し、その研究成果の知的財産化を推進する。</li> <li>・知的財産に関する講演会を開催する。</li> <li>・教員の研究成果の知的財産産化促進のため、校長裁量経費特別奨励研究(知財枠)公募制度を継続して実施する。</li> <li>・新技術説明会への参加を推奨する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・知的財産の資産化促進のため、昨年度に引き続き、校長裁量経費特別奨励研究(知財枠)を公募し、2名の教員に対し研究費の支援を行ったが、特許出願までには至らなかった。</li> <li>・新技術説明会への参加を奨励したが、参加には至らなかった。</li> </ul>

平成27年度計画に対する実績報告

平成27年度 新居浜高専 年度計画	年度計画に対応して実施した事業内容
<ul style="list-style-type: none"> <li>産学官連携コーディネーターを活用し、研究の活性化・促進を図る。</li> <li>新居浜高専研究シーズ集、大型研究設備紹介等を冊子として発行する。</li> <li>高度技術教育研究センターホームページに掲載の最近の研究成果など充実を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>四国地区産学連携コーディネーター(以下、「コーディネーター」という。)の活動により、本校、弓削商船高専及び企業2社の間で10月に共同研究契約を締結し、共同研究を進めている。</li> <li>JST等の外部資金応募にあたっては、コーディネーターからアドバイス等を受けるなど連携を図った。</li> <li>研究の成果をまとめた「新居浜高専研究シーズ集-10」を作成し、地域企業等に配付した。シーズ集-10では、研究シーズの紹介のほか、本校保有設備のうち最新の大型教育研究設備(13設備)についても紹介した。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>出前講座の実施にあたっては、参加者に対して満足度等についてアンケートを実施し、その結果を改善充実に反映させる。</li> <li>小中学校向け出前サイエンス講座については、新たなテーマ加えるなど内容の充実を図る。</li> <li>新居浜市と連携した新居浜生涯学習大学「新居浜高専市民講座」において、本校独自のアンケートを実施する。</li> <li>地域で従来から推進してきているものづくり人材育成事業、さらに地域が新たに取り組む事業や協議会等に積極的に協力する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の小中学生を対象に23回の出前講座を実施するとともに、参加者に対する満足度等のアンケート調査も行き、今後の改善に反映させることとしている。また、今年度は初めて県外の小学校(2校)でも実施することができた。</li> <li>小中学校向け出前サイエンス講座では、新しいテーマを3件追加するとともに、1件テーマを復活させ、充実を図った。</li> <li>新居浜市と連携した新居浜生涯学習大学「新居浜高専市民講座」を全8回(5～11月 延受講者数355名)開催した。毎回、受講者には本校独自の満足度等のアンケート調査も行き、今後の開催方法等の改善に反映させることとしている。</li> <li>12月に科学研究費による研究成果の社会還元・普及事業として「ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～KAKENHI」を開催し、県内外から小中学生17名が参加した。</li> <li>ものづくり教育支援センター主催で、8月に地域の中学校の技術教員を対象(参加者8名)に、また、小・中学校の理科教員を対象(参加者15名)にそれぞれ「夏季実技研修会」を開催した。</li> <li>教員1名と技術職員4名が、新居浜のものづくり人材育成協会主催の地域の若手企業技術者等を対象としたものづくり人材育成研修講座(「機械加工技能向上講習(8/24～9/1)」、「マシニングセンタ加工講習(9/3～9/11)」)に講師として参加、協力した。</li> </ul>
<p>3 国際交流等に関する事項</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ISATE及びISTSに教員または学生を参加させ発表を行わせる。</li> <li>愛媛大学と連携して、高雄第一科技大学との短期学生交流、インターンシップの実施を検討する。</li> <li>木更津高専、香川高専等と連携して「日台交流プログラム」の活性化を促す。</li> <li>学術交流協定校である重慶工業職業技術学院に海外インターンシップとして学生を派遣する。また交換事業として、重慶工業職業技術学院の学生を本校に短期研修させる。さらに教員の重慶工業職業技術学院への派遣についても検討する。</li> <li>徳州工業職業技術学院との学術交流協定の締結を進める。</li> <li>在外研究員として教員1名をオーストラリアに派遣する。また、次年度以降の在外研究員派遣についても学内での調整を進める。</li> </ul>	<p>3 国際交流等に関する事項</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>第9回国際工学教育研究集会(ISATE2015)において、教員1名がポスター発表(題名「多読活動に連動させた子供への英語絵本読み聞かせ」)を行った。また、ISTS2015については、専攻科生1名が参加し発表を行った。(再掲)</li> <li>愛媛大学と連携した高雄第一科技大学(台湾)との短期学生交流、インターンシップ等の実施については、事業主体である愛媛大学における企画に進展がなかったため実現には至らなかった。</li> <li>木更津高専、香川高専等との連携で行っている「日台交流プログラム」については、計画は立案したが予算等の関係で実施できなかった。</li> <li>学術交流協定校である重慶工業職業技術学院に海外インターンシップとして専攻科生を派遣し、終了後は報告会を実施した。また、重慶工業職業技術学院の学生の短期研修については、受け入れの申し入れはあったが、先方の都合により延期となった。その後も進展がなかったが、今後、要請があり次第、受け入れる予定である。</li> <li>徳州工業職業技術学院との学術交流協定の締結については、先方の来日日程に合わせて調印準備も終了していたが、先方の都合により急遽来日ができず、延期になった。その後も進展がないが、今後も締結に向けて調整を行う予定である。</li> <li>新たな学術交流の協定先としてスラバヤ工科大学(インドネシア)と協議を進め、平成28年5月に調印することとなった。</li> <li>在外研究員として電子制御工学科教員1名を学術交流協定校でもあるサザンクロス大学(オーストラリア)に約1年間(平成27年4月～平成28年3月)派遣した。また、次年度の在外研究員派遣についても学内での調整を行ったが、応募には至らなかった。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>海外留学支援制度について、学生への周知を図る。</li> <li>昨年度に2回実施した海外研修(中国およびオーストラリア)と同様に、全学生を募集対象とした海外研修を引き続き実施する。</li> <li>高専機構主催の海外インターンシップへの参加を推奨するとともに本校独自の海外インターンシップ実施を検討する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>留学エージェントの協力のもと、本科1、2年生を対象に「トビタテ! 留学JAPAN 日本代表プログラム(高校生コース)」海外留学説明会を開催し、学生や保護者、教職員ら約50名の参加があった。その結果、9名の学生が応募した。</li> <li>全学生を募集対象とした海外研修として、学術交流協定校であるサザンクロス大学(オーストラリア)において語学研修プログラムを実施した。(引率教員2名、参加学生19名)</li> <li>本校独自に計画した海外インターンシップとして、モンゴルと重慶(中国)において専攻科生3名が参加した。高専機構主催の「海外インターンシッププログラム」については、第2次日程に本科生1名が参加予定であったが、体調不良のためやむを得ず不参加となった。(再掲)</li> <li>津山高専ほか中国地区高専のコンソーシアムが主催するシンガポールにおける短期技術英語研修については、参加学生の募集を行ったが、希望者はいなかった。</li> </ul>



## 平成27年度計画に対する実績報告

平成27年度 新居浜高専 年度計画	年度計画に対応して実施した事業内容
<ul style="list-style-type: none"> <li>・高専機構の「外国人学生対象の3年次編入学試験」に継続して参加する。</li> <li>・昨年度は高専機構の要請により、遠隔テレビ会議システム（スカイプ）を用いて留学生受入試験を本校において実施したが、同様の要請があれば可能な限り協力する。</li> <li>・国際交流推進室が中心となって、一層の留学生指導を行うとともに、高専機構が開催する留学生指導に関する研究会等に参加する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高専機構の「外国人学生対象の3年次編入学試験」に継続して参加したが、本校への志願者はいなかった。国費留学生1名（インドネシア）及びマレーシア政府派遣留学生1名を受け入れる予定である。</li> <li>・留学生に対しては、各学科ごとに担当教員を配置し、日常の勉学、生活、地域との交流等について指導、助言等の支援を行っている。また、国際交流関係教職員スキルアップワークショップ等に教員を派遣し、担当者としてのスキルアップを図った。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・留学生の研修旅行を実施する。</li> <li>・四国地区総合文化祭における留学生交流行事に参加する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・10月に留学生が日本の文化や歴史に触れ、また、最新技術設備の見学や体験を通して日本をより一層理解すること、さらに留学生同士の交流を活発にすることを目的に九州方面への研修旅行（2泊3日）を実施した。</li> <li>・四国地区高専総合文化祭では、留学生コーナーを設けて母国紹介等を行うとともに、四国地区の全留学生が文化的活動体験を通して交流を深めた。</li> <li>・12月の第2週には、学内で「留学生ウィーク」を設け、母国紹介パネルの展示を行うとともに、最終日には地域の支援団体等を招いて母国紹介講演会（今年度はマレーシア）を実施した。</li> </ul>
<p>4 管理運営に関する事項</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高専機構の年度計画に基づき、効果的・戦略的に予算を再配分し、適正な執行に努めるとともに執行後は内容等を検証し、その結果を次年度以降の配分に反映させる。</li> </ul>	<p>4 管理運営に関する事項</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・予算配分にあたって、従来の学内予算科目、校長裁量経費「教育研究基盤設備整備推進費」を見直し、「年度計画他重点配分経費」を新設し、年度計画における重点配分経費として戦略的な執行を行い、主たる事項としては、学生の教育環境改善に係る経費に充当した。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・管理職研修に主事を必ず参加させる。</li> <li>・四国地区高専校長・事務部長会議において、管理運営の在り方等について情報を共有する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教務主事が教員研修（管理職研修）に参加した。</li> <li>・四国地区高専校長・事務部長会議に参加し、管理運営に係る情報の共有を行った。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・業務負担軽減の取り組みとして、学生寮日直業務、クラブ活動安全管理指導業務及び学寮指導業務の外部委託を継続して実施し、教員の負担軽減に努める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生寮における日直業務、クラブ活動安全管理指導業務及び学寮指導業務の外部委託を実施し、教員の負担軽減に努めた。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員全員を対象に高専機構作成のコンプライアンス・マニュアルに基づいてセルフチェックを実施し、コンプライアンス意識の向上を図る。</li> <li>・物品の納品検収体制については、発注者と納品検収者が同一人にならないよう現在の事務体制を維持継続する。</li> <li>・会計事務担当者のスキルアップを図ることを目的に高専機構の会計規則や会計処理等に関する研修会を実施する。</li> <li>・会計事務担当者は、日頃から教員とのコミュニケーションを密にし、教員にも会計事務を理解してもらうことに努める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コンプライアンスについての再認識と意識向上を図るため、8月に高専機構作成のコンプライアンス・マニュアルに基づき、全教職員を対象にセルフチェックを実施した。</li> <li>・物品の納品検収体制については、発注者と納品検収者が同一人にならない事務体制が維持できており、引続き継続していく。</li> <li>・平成26年度末に作成した財務会計マニュアルを基に、会計処理等に関する事項について会計事務担当者を対象に研修会を実施するとともに、同マニュアルの更新も行った。</li> <li>・会計事務担当者は、日頃から教員とのコミュニケーションを図るとともに、教員に会計事務の理解を深めてもらうため、教員会を利用した研修会を2回（7、11月）実施した。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・高専相互監査において効率的かつ効果的な監査を実施するため、会計担当職員研修時において監査のマニュアル等に基づき、監査事項、チェック項目の内容を中心に自己点検と相互チェックを行う。</li> <li>・本校での内部監査等が適切に実施できるよう、学内マニュアル・研修等を見直し、充実させる。</li> <li>・高専機構から情報提供される監事監査・内部監査等における課題については、学内で情報共有するとともに未対応事項については速やかに対応措置をとる。</li> <li>・今年度予定されている監事監査・内部監査には適切に対応することとし、指摘事項については速やかに改善措置をとる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度の高専相互監査においては適切に実施することができた。指摘事項については、本校における会計機関における補助者の規程の見直しを行った。</li> <li>・物品の納品検収体制については、発注者と納品検収者が同一人にならない事務体制が維持できており、引続き継続する。（再掲）</li> <li>・平成26年度末に作成した財務会計マニュアルを基に、会計処理等に関する事項について会計事務担当者を対象に研修会を実施するとともに、同マニュアルの更新も行った。（再掲）</li> <li>・教員に会計事務の理解を深めてもらうため、教員会を利用して研修会を2回（7、11月）実施した。研修会におけるアンケート結果は、今後、よりよい研修会となるよう反映させる予定である。</li> <li>・12月に実施された高専機構監事監査・内部監査及び情報セキュリティ監査における指摘事項等については、学内で情報共有を行うとともに、順次、改善に取り組んでいる。</li> </ul>

## 平成27年度計画に対する実績報告

平成27年度 新居浜高専 年度計画	年度計画に対応して実施した事業内容
<ul style="list-style-type: none"> <li>・高専機構の不正防止計画等における取組状況について定期的に報告を行うほか、別途、適正な会計処理に向けた対応策を定め、再発防止策等の見直しを継続的に実施する。</li> <li>・本校の適正な会計処理に向けた対応策及び高専機構の不正防止計画の周知徹底を図り、不正防止に努める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・9月に機構本部における公的研究費等に関する不正使用の再発防止策の取組状況について報告を行った。報告については、別に報告を行っていたフォローアップ調査と一本化されたことに伴い、当該報告に加えて本校における体制整備等のチェックリストを加えた。</li> <li>・本校における「適正な会計処理に向けた対応策」については、全教職員あてにメールで周知を行った。また、「高専機構の不正防止計画」については、学内研修会のほか、学内ウェブサイトにも掲載し、周知徹底に努めた。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・四国地区大学教職員能力開発ネットワーク（SPOD）が主催するSD研修会への事務職員の参加を検討する。</li> <li>・事務職員による事務職員のためのワークショップ形式の研修会を企画・実施する。</li> <li>・近隣大学及び近隣高専が主催する技術職員対象の研修会に参加させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・SPOD主催の各種研修会のうち、「高等教育機関における安全衛生」に施設担当補佐1名、「大学人・社会人としての基礎力養成プログラム研修（レベルⅡ）」に係長2名を参加させた。</li> <li>・平成27年度四国地区国立高専専門学校技術職員研修・技術発表会（1名）、平成27年度中国・四国地区国立大学法人等技術職員研修（2名）、平成27年度中国・四国地区国立大学法人等技術職員組織マネジメント研究会（技術長）に参加させた。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・近隣国立大学法人との積極的な人事交流を推進する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・愛媛大学から新たに3名の事務職員を受け入れ、事務の活性化を図った。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・eラーニングを活用した教職員対象の情報セキュリティ教育については、全教職員の受講を徹底させ、情報セキュリティ意識の向上を図る。</li> <li>・IT人材育成研修会及び情報担当者研修会には担当者を必ず参加させ、各種情報基盤の円滑的な運用の確保に努める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・eラーニングを活用した研修について、全教職員に定期的に実施状況の報告を行い、受講率100%を達成することができた。今後も情報セキュリティについての意識の向上を図っていくこととする。</li> <li>・IT人材育成研修会については教員が参加し、情報担当者研修会については、教員と情報担当職員が参加した。今後の高専統一ネットワークやOffice365（学生用含む）等の各種情報基盤の運用の確保に向けて、情報教育センターを中心に進めていくこととしている</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・就職率（就職者数/就職希望者数）については、100%を目標とし、少なくとも前年度実績は維持する。</li> <li>・より丁寧な教育指導に努め、留年学生数を前年度より減少させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・就職率については、100%を達成することができた。次年度以降においても100%を目標に各種の就職支援活動に取り組んでいくこととする。</li> <li>・今年度末における留年生は、前年度末に比べ5人少なく、若干ではあるが改善することができた。しかしながら、まだ少なくはないため、次年度以降においても引き続き丁寧な教育指導に努めるとともに、学生の到達度を向上させるための授業改善に取り組んでいくこととしている。</li> </ul>
<p>5 業務運営の効率化に関する事項</p> <p>○一般管理費の縮減取組計画</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一般管理費の縮減に向け予算の計画的な執行と適正な物品管理により、効率的な管理業務に努め、事業・行事等の実施にあたっては、関係機関等と連携を密にし効率的に運営する。</li> </ul> <p>○随意契約の見直し状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・少額随契基準額を超える契約について、一般競争契約とする。</li> <li>・物品調達にあたっては、契約の適正化を図るため、一括契約ができるよう計画的に進める。</li> <li>・また、平成26年度末に本校独自の財務会計マニュアルを作成した。契約の適正な実施についても掲載しており、引き続き整備・更新を行う。</li> </ul> <p>○効果的・戦略的な資源配分</p> <p>機構本部からの予算配分に基づき、学内において最適な予算配分を行う。</p>	<p>5. 業務運営の効率化に関する事項</p> <p>○一般管理費の縮減取組計画</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新聞、追録をはじめとする定期刊行物等の購入計画を見直し、部数の削減や中止を行った。</li> <li>・両面コピーや不要用紙の裏面利用を推進しており、今後も継続していく予定である。</li> </ul> <p>○随意契約の見直し状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・年間で50万円を超える少額随意契約についても見積もり合わせを行い、より安価な契約を行うこととしている。</li> <li>・一般競争入札における一者応札の見直しとして、仕様策定の段階で複数メーカーが応札可能な仕様を作成することを心がけ、メーカーを競争させることにより、より安価な契約を行うこととしている。</li> <li>・本校独自の財務会計マニュアルについては、会計担当職員研修会を実施し、今年度に変更した事項を反映させる形で改訂を行った。</li> </ul> <p>○効果的・戦略的な資源配分</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・予算配分にあたって、従来の予算科目、校長裁量経費「教育研究基盤設備整備推進費」を見直し、「年度計画他重点配分経費」を新設し、年度計画における重点配分経費として、効果的・戦略的な配分を行った。</li> </ul>